

海外安全対策情報（平成25年度第2四半期）

1 社会・治安情勢

（1）本年10月初旬のAPEC閣僚会議及び首脳会議に向けて、バリ州内のインフラ整備が進められていますが、9月下旬、バリ南部地域を結ぶ海上高速道路が開通したほか、ングラ・ライ国際空港の拡張工事が進められ、10月初旬、新しい国際線ターミナルが完成しました。

（2）9月、APEC女性と経済フォーラム、APEC財務大臣会合、ASEAN/EASエネルギー大臣会合、ミス・ワールド世界大会の最終選考会等の多くのイベントがバリ島で開催され、多くの政府要人等がバリ島を訪問しました。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）7月、警察は、バリ州における本年1月から5月までの間の犯罪認知件数を発表したところ、昨年の同期間の約11.5%増加となっています。外国人が被害となる事案として、依然として、ひったくり、スリといった路上犯罪が多く発生しました。また、ホテルの客室内に備え付けの貴重品保管庫から、現金が盗まれる被害も数件発生しました。

（2）邦人被害事案

7月中旬から8月にかけて、ングラ・ライ国際空港内のポーターが、旅行者が依頼していないにもかかわらず、無理矢理スーツケースを運び、法外な料金を請求する事案が複数発生しました。総領事館から空港当局に対して、厳重に抗議するとともに、改善の申し入れを行いました。

8月中旬、バリ島観光名所の1つであるタナロット寺院において、邦人旅行者が鞆に入れてあったポーチを盗まれるスリ被害に遭いました。

8月下旬、ウブド地区において、在留邦人が自転車で走行中、後方から近づいたバイクに乗った男に、自転車の前籠に入れてあった鞆をひったくられる被害に遭いました。

9月初旬、デンパサール市内において、在留邦人が自宅前に車を停めて門扉を開けようとしたところ、バイクに乗った2人組の男に抱えていた鞆をひったくられる被害に遭いました。

（3）邦人以外の被害事例

9月下旬、レギャン地区にあるレストランにおいて、エアソフト銃が撃たれる事案が発生しました。これによる怪我人等の人的被害は発生しませんでした。現場周辺にいた人々は一時パニック状態となりました。

その他、7月から8月にかけて、外国人を対象としたスリや空き巣の犯人が

ループが相次いで逮捕されました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

7月、スマトラ島メダンの刑務所の騒擾事案に際してテロリストが脱走する事案、中部スラウェシ州の刑務所からテロリストが脱走する事件、インターネット動画サイト「ユーチューブ」にテロリストが警察に宣戦布告する内容の動画が投稿される事案、8月、首都ジャカルタ周辺で警察官が相次いで射殺される事案等が発生しました。バリ州ではテロ等に関わる事件は発生していませんが、APEC首脳会議開催へ向けて、バリ州以外からのテロリストの侵入や爆弾の持ち込みに対する警戒が強化されました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

8月上旬、サヌール地区において、邦人旅行者が現地中年女性から声を掛けられ、昼食に誘われて同女性の自宅を訪問したところ、言葉巧みにいかさまの賭博で儲ける仲間に仕立て上げられた上で、賭博への参加を断れない状況に陥り、現金を騙し取られる被害が発生しました。

インドネシアにおいて賭博そのものは違法とされておりますので、この種の被害に対しては、賭博の共犯となる要素が多く、警察による被害の救済は困難なのが現実ですので注意が必要です。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

バリ州内の道路事情について、バリ南部（ヌサ・ドゥア地区、空港、ブノア）を結ぶ海上高速道路が完成・開通しました。一般車両（一回の通行料は1万ルピア）のほか、二輪車専用の走行レーンも設置されています。同高速道路の開通により、ブノア地区、空港、ヌサ・ドゥア地区を結ぶ交通が大幅に時間短縮可能となりました。

以上